

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：家庭児童福祉費

事業名 「ライフデザインを考える」啓発プロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 子ども・女性局 子育て支援課 少子化対策係

電話番号：058-272-1111 (内 2437)

E-mail： c11236@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,724 千円 (前年度予算額：4,349 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,349	2,174	0	0	0	0	0	0	2,175
要求額	3,724	1,862	0	0	0	0	0	0	1,862
決定額	3,724	1,862	0	0	0	0	0	0	1,862

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

少子化の大きな要因として、非婚化・晩婚化が近年加速していること、非正規雇用の増加により結婚できない若者の増加があげられる。また、晩婚化に伴い高齢出産や不妊治療受診が増加している。

これらの現状を解消するため、人生の早い時期に結婚、妊娠・出産、子育て、就労等に関する知識や人生設計を考える機会の提供が求められている。

(2) 事業内容

人生の早い時期において、結婚、妊娠・出産、子育て、就労等の人生設計を考えるための中・高校生向けの啓発冊子を作成・配付し、家族や子どもを持つことを前向きにとらえてもらう機会を提供する。

①中・高校生向け「啓発冊子」の作成・活用

・中・高校生向けに今後の人生設計を考える上で必要な知識等を盛り込んだ啓発冊子を家庭科の副読本として作成し、県内の中学生及び高校生に配布している。冊子のより効果的かつ効率的な活用を目指して、教育委員会と連携していく。

②スキルアップ研修・ライフデザイン講座講師派遣の実施

・中学校・高等学校での活用やライフデザイン教育の充実に向け、教育委員会と連携し、教員のライフデザイン教育に関するスキルアップを目的とした研修会等を実施する。

・子育ての喜びや楽しさ、育児休業の取得、仕事と子育ての両立等について経験者が語る「ライフデザイン講座」を、小・中学校、高等学校で開催。

(3) 県負担・補助率の考え方

1 / 2 (地域少子化対策重点推進交付金を活用)

(4) 類似事業の有無

無 【類似事業】女性の結婚支援センター事業 (いのちの教育 (性教育))
「いのちの教育 (性教育)」を推進するため、各保健所で学校等からの依頼があった場合に「健康教育」を実践するものであり、本事業の趣旨とは異なる。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	290	講師謝金
旅費	183	費用弁償、業務旅費
需用費	25	消耗品費
役務費	114	郵送料
印刷製本費	3,112	啓発冊子印刷
合計	3,724	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4次 岐阜県少子化対策基本計画

I 子育てを社会全体で支える意識を高めるための環境づくり

II 若者の結婚の希望がかなえられる環境づくり

(2) 事業主体及びその妥当性

県下全域を対象に実施するものであるため、県が事業主体として妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 中・高校生向けにそれぞれ啓発冊子を作成し、県内の中学校及び高校に配布する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R6)	
					目標	達成率
① 小・中学校、高等学校への講師派遣によるライフデザイン講座受講者数（累計）	/	296人	960人	1,440人	2,400人	12.3%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 平成26年度に作成した啓発冊子が、初版から6年経過したことを踏まえ、高校生向け冊子の内容を一新するとともに、新たに中学生向け冊子を作成し、県内の全中学校及び高等学校に配布した。</p>
令和3年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	県の少子化対策として、結婚や子育てがしやすい社会づくりに取り組む一方で、県民が、人生の早い段階から、「仕事」「結婚」「妊娠・出産」「子育て」などのライフステージを見通して将来の人生設計を描き、タイミングを逃さず、自ら希望する生き方を選択し実現していけるよう、ライフデザインについて、知り、考える機会を提供する必要がある。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	教科書は全国的なデータが掲載されている一方で、啓発冊子は、県内のデータや事例を掲載し、身近な情報として、自分事としてとらえやすいと評価されている。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	中学、高校で、継続・反復して学ばせ、ライフデザインを見直す機会を提供することによって、より深い学びと気づきを促すことにつながっている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 県民が、人生の早い段階から、「仕事」「結婚」「妊娠・出産」「子育て」などのライフステージを見通して将来の人生設計を描き、タイミングを逃さず、自ら希望する生き方を選択し実現していけるよう、今後も継続してライフデザインについて、知り、考える機会を提供する必要がある
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 啓発冊子の作成・配布を継続して実施するとともに、中学生のキャリア教育や高校生のライフデザイン教育等の「授業」の副読本としての活用を促進していく。
